令和５年度　都立西高校学校経営計画

常に新型コロナウイルスの感染拡大防止に努めながらも、「西高らしい」教育活動を推進していかなければならない。特に、令和２年度末に策定した「グランドデザイン」のルーブリック評価において、学年進行により「A」や「S」の評価の割合が高くなるよう様々な教育活動を推進していくことが必要である。保護者の協力を仰ぎながら、教職員とともに学校経営を進めて行く。

目指す学校像	「東京都立西高等学校　教育活動の指針（スクール・ミッション及び3つのスクール・ポリシー）」による				
中期的目標と方策	「文武二道」「自主自律」「授業で勝負」の伝統を継承し、学習活動・特別活動に意欲的・主体的に取り組む生徒の育成に努めるとともに、社会の変化に的確に対応した学校改革を積極的に進め、高い進学希望を実現させるための支援を学校全体として計画的に行う。				
	各　組　織		今年度の取組目標と方策	今年度の重点目標	関連する数値目標 （昨年度実績）
	Ⅰ　学校全体	1 「授業で勝負」の理念のもと、日常の授業を改善するとともに、生徒の主体的な学習意欲の向上を図る。	①日々の授業を通して、授業を第一に考える生徒を育成 ②「年間授業計画」に基づき、計画的で主体的な学習態度の育成 ③教科マネジメントの確立、研修の充実等により、教科指導力の向上	○「年間授業計画」と改訂した「学習の手引き」の活用指導とその検証 ○自学自習態度の育成 ○授業改善に向けて、相互授業見学の実施や生徒による授業評価結果の活用 ○土曜（教養）講座の充実	○生徒の「学習への取り組みの自己評価」の向上80%以上(71%) ○1・2年生の自宅学習時間2時間以上(1年:2時間3分、2年:2時間10分) ○生徒の授業満足度90%以上(91%) ○土曜（教養）講座をすべての教員が開講
		2 学習環境の整備と生活規律の向上を図る。	自覚を促す指導を通して、 ①感染拡大防止対策の徹底 ②校内美化の徹底 ③生徒の自己管理能力の育成	○感染拡大防止対策の徹底 ○生徒の美化意識向上 ○所有物と時間の自己管理を徹底	○校内美化に関する学校評価65%以上(54%) ○遅刻者数　月1桁/学級 ○遺失物等を減少
		3 教育公務員としての高い使命感・倫理観をもち、服務規律を遵守するとともに、協働意識を向上させ、ライフ・ワーク・バランスを図る。	①服務規律の徹底 ②情報資産の厳密な管理 ③情報の共有化と会議の効率化 ④分掌・教科等を超えた協働体制の拡充	○情報資産の管理体制の遵守 ○計画的な仕事の進め方により、分掌や学年が連携し業務の効率化を推進	○服務事故防止研修の実施(3回) ○服務事故や服務上の課題ゼロ ○超過時間が80時間/月を超える教職員ゼロ(13名)
		4 教育改革の動向を見据えた指導体制、内容の見直しを行う。	①大学入試改革に対応した指導体制の見直し ②新学習指導要領を踏まえた指導内容・方法の改善・充実	○ICT機器の運用力を高め、学習指導で生徒一人1台端末活用を充実 ○学年進行で「観点別学習状況の評価」を行い「指導と評価の一体化」の主旨を反映した取組	○将来構想委員会等での検討 ○生徒一人1台端末を活用した教育活動を実践 ○教職員の共通理解を図るための校内研修等の充実
		5 本校の教育に理解と共感を抱く保護者、生徒の拡大を図り、挑戦意欲旺盛な生徒の獲得を目指す。	①全校体制で広報活動を実践 ②委員会を中心に、効率的・効果的な広報活動を実践	○本校への入学希望者の拡大 ○学校説明会の時期・形態の見直し ○効率的な広報活動の開発	○入学希望者の増加 推薦倍率3.50倍(4.37倍) 一次倍率1.75倍(1.83倍) ○ホームページの更新300回以上(231回) ○外部での学校説明会の継続実施(12回)
		6 キャリア教育や国際交流事業の推進等を通して、変化する社会の中で次代を担う人材の育成を図る。	①3年間を見通した系統的なキャリア教育の実践の推進、PTAや同窓会と連携したキャリア教育関連事業の充実 ②国際交流事業の体系化と教科等の学習活動との関連の明確化	○職業的自立意識の醸成 ○国際理解の深化と国際協調の精神の涵養 ○グローバルリーダー育成研修の充実 ○姉妹校交流の推進 ○オリ・パラ教育の充実	○訪問講義の充実(4回) ○ジョブシャドウの拡大 (4名参加) ○国際交流事業の充実 ○留学、海外研修等参加生徒の維持 ○アメリカ研修、GSP研修の充実

中期的目標と方策	Ⅱ 各教科	7 考査や模擬試験等を通して「学習の手引き」の検証と改善を行うとともに、教科としての学習支援体制の一層の充実を図る。また、教科資料の共有化を図る。	①各種試験の調査分析を実施 ②分析に基づく教科としての学習支援体制の充実 ③教材プリント等の共有 ④Society5.0時代を踏まえICT機器を活用した授業を推進	○問題分析集の作成 ○検証に基づく教科シラバスの改訂、修正 ○補習補講の充実 ○教材の共有化 ○個人データの活用 ○探究活動の充実 ○デジタル技術の活用力を高め、生徒端末の活用方法の工夫	○「教え方の工夫」に関する生徒肯定評価90%以上(93%) ○夏期講座、日常的な補習・補講の充実 夏期講座80以上(61) ○大学入学共通テストにおける6教科18科目の平均点合計を全国平均合計で300点上回る(321点)
	Ⅲ 学年	8 三年間を見通した継続的・計画的な指導を通して、主体的に活動する生徒の育成を図るとともに、高い進路希望の実現を図る。	①「年間授業計画」に基づき、計画的な指導を推進 ②面談やホームルーム活動等を通して生徒理解に努め、生徒が意欲あふれる学校生活を送れるように支援 ③生徒の個人データや学年通信、進路ノート等を活用し、進路意識の啓発に努め、高い進路希望の実現を支援 ④探究活動を充実	○勉強と特別活動の両立 ○生活規律の確立と美化意識の向上 ○生徒理解の研修会の実施 ○自覚を促す進路指導の充実 ○「学習の手引き」の活用の一層の促進 ○個人データの活用	○生徒の入学満足度95%(94%) ○保護者の入学満足度100%(95%) ○1・2年生の自宅学習時間2時間以上(1年:2時間3分、2年:2時間10分) ○遅刻者の減少 ○美化に関する生徒の学校評価の向上
	Ⅳ 教務部	9 特色ある教育課程のもとに教育環境を整備し、生徒の主体的・意欲的な学習態度を育成し、自学自習の習慣の定着を図る。	①大学入試改革を見据えた年次進行での教育課程の検討 ②自学自習の態度を育成 ③進路部と協働して、三年間の生徒の学習実績を検証	○現行教育課程の成果・検証 ○学習ガイダンスの実施 ○生徒の自学自習を支援する体制の整備	○年間の授業時数1000時間以上確保(1年:1014時間、2年:1053時間) ○将来構想委員会等での成果検証
	Ⅴ 進路部	10 生徒の高い進路希望を実現するために、進路情報や進路資料を整備し、段階的、系統的な進路指導を実施する。	①進路通信や学年集会等を活用し、進路意識の啓発を図るとともに、緻密にして、系統的な進学指導を推進 ②進路指導室の進学指導資料の充実 ③学年との連携を図り、進路相談機能の充実	○蓄積された進路情報の分析と校内への周知 ○教師用の進路資料の充実 ○現行の進路指導計画の検証 ○新たな進路データベースの円滑な運用	○進路結果の分析会の実施(5回) ○生徒の進路情報・進路指導満足度90%の維持(92%) ○自習室利用の維持(3450名) ○チューター利用の増加(155名)
	Ⅵ 生徒部	11 多様な部活動や学校行事を通して、主体的に取り組む生徒の育成を図るとともに、規律ある学校生活の中で、逞しく生きる生徒の育成を図る。	①活気に溢れる中にも規律ある学校生活を推進 ②行事・部活動等の支援体制を整備し、目的と規律のある特別活動の一層の充実	○真の「文武二道」に向けた指導体制の確立 ○規律ある学校生活の確立 ○目的意識や課題意識のある生徒の育成 ○進化する学校行事の実践	○部活動加入率100%(185%) ○遅刻者数の減少 ○遺失物等の減少 ○学校行事への生徒の取り組みに関する評価90%(89%)
	Ⅶ 厚生部	12 生徒の自己管理能力を育成し、健康で安全を心がける生徒の育成を図る。	①生徒による主体的な活動を支援し、校内の美化や衛生を改善 ②スクールカウンセラーらの活用を通して、生命尊重と思いやりの心を育成	○校内美化の徹底 ○生徒理解の深化	○校内美化に関する学校評価を上昇(54%) ○生徒理解の研修会の継続実施(4回) ○スクールカウンセラーとの相談件数の維持
	Ⅷ 総務部	13 PTA、同窓会をはじめ地域や社会教育と連携することにより学校支援体制を整え、教育環境・条件の改善整備に努める。	①PTAや同窓会との連携を深め、教育環境の整備を推進 ②学校運営連絡協議会の円滑な運営 ③文化事業の円滑な実施	○PTAや同窓会による生徒への支援活動の円滑な実施 ○文化事業の工夫 ○学運協をはじめ外部の意見を校内に周知	○保護者の入学満足度100%(95%) ○訪問講義への生徒参加の増加(4回511名)
	Ⅸ DX部	14 校内や生徒の端末機器の管理や運用全般について他分掌をリードし、校内のDXを推進する。	①都教委からの指示に基づく校内端末機器の適切な管理・運用を推進 ②校内でのICT機器の活用推進	○関係部署との連携 ○業務の効率化、省力化 ○校内運用に係る文書類の一元整理	○生徒一人1台端末の利用実績向上 ○教員の教育活動への活用向上
	Ⅹ 経営企画室	15 計画的な予算執行と校内関係部署との連携により、円滑な教育活動を支援するとともに、温かい窓口業務を行う。	①業務内容に応じて、日頃から管理職や関係教員との連携を心がけ、円滑な実施を可能と業務の省力化を推進 ②丁寧で温かい窓口業務	○関係部署との連携 ○業務の効率化、省力化 ○計画的にして効率的な予算執行 ○施設の老朽化に対する対応	○予算大綱を10月当初までに決定 ○自律経営予算の執行を第2四半期終了までに65%を目指す(57%)